

国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存・活用・整備に伴う
基本設計（案）の概要について

平成27年7月
府中市教育委員会

目次

I	これまでの経緯	
I-1	調査研究の成果と史跡指定	1
I-2	保存整備活用事業の経過と要旨	1
II	計画地の概要	2
III	本計画のテーマ ～国史跡武蔵国府跡国司館地区の保存・整備・活用が目指すもの～	3
IV	基本設計の前提条件	
IV-1	計画の構成	5
IV-2	活用の基本方針	5
IV-3	活用の計画	6
V	基本設計の概要	
V-1	保存・整備の基本方針	8
V-2	配置計画	8
V-3	全体配置図	9
V-4	遺構整備	10
V-5	外構整備	12
V-6	管理・運営計画	12
V-7	概算工事費	13
V-8	今後のスケジュール	13
VI	各政策との連携	
VI-1	新庁舎建設事業	14
VI-2	計画地周辺の歴史遺産を活かしたまちづくり	14

I これまでの経緯

I-1 調査研究の成果と史跡指定

武蔵国府跡は、昭和50年から40年間に亘る発掘調査の成果により、国内で最も国府の具体的様相が明らかになっている史跡であり、平成21年7月に大國魂神社境内地とその東側の市有地が国史跡の指定を受けました。

本計画地では、平成20～22年、店舗複合施設建設を目的とした発掘調査を実施し、奈良時代の初期国司館と想定される建物群を発見したことから、平成23年2月に国史跡武蔵国府跡の追加指定を受けました。

また、江戸時代の徳川家康府中御殿に関連する遺構も発見されています。



発掘調査風景（本計画地を北から撮影 平成22年）



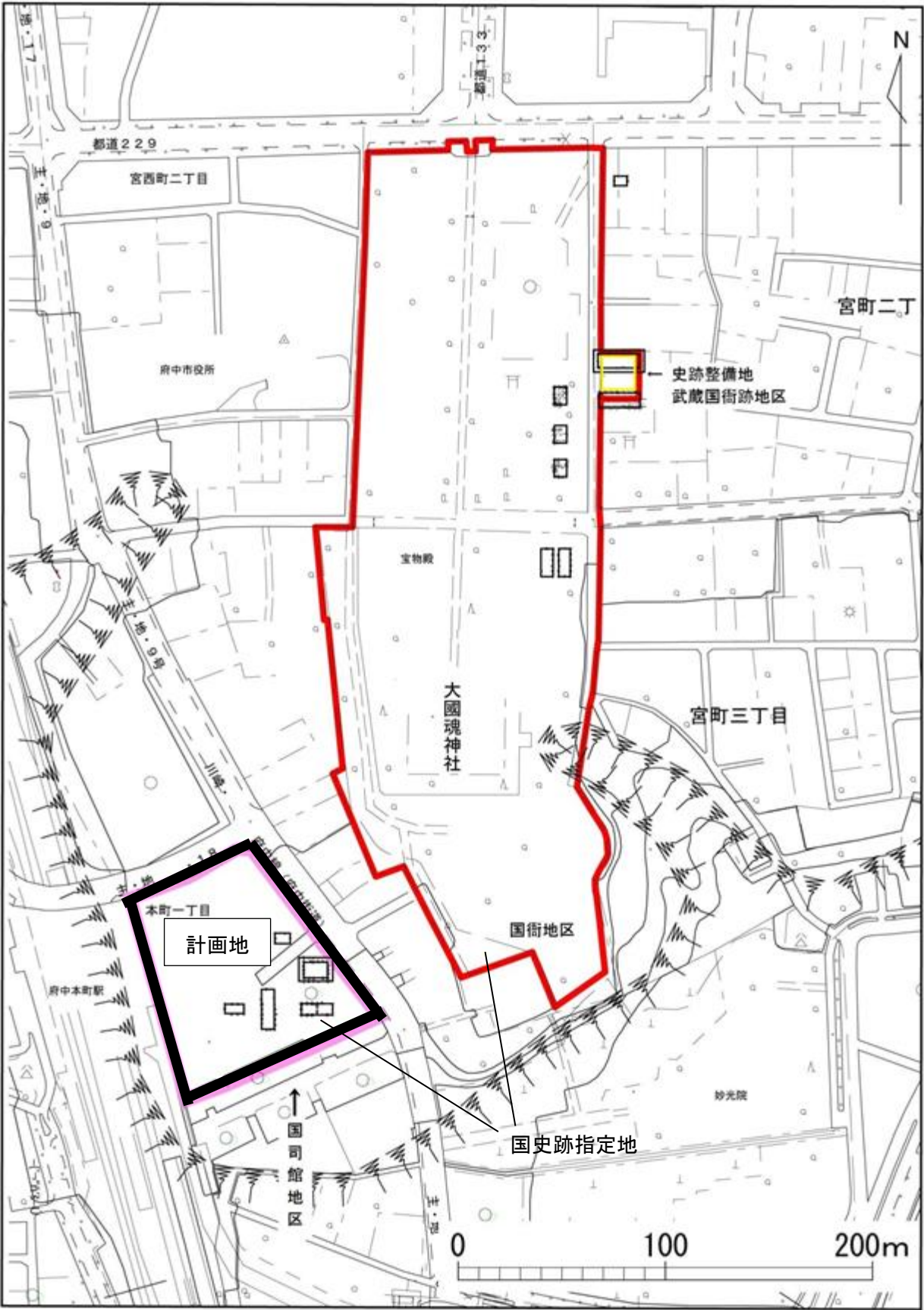
出土した遺物（墨書土器「〇館」と金銅製帯金具）

I-2 保存整備活用事業の経過と要旨

平成23年度	平成24年度	平成25年度	基本設計への適切な反映
市民懇談会の提言	保存、整備及び活用基本計画提言書	保存管理計画	
① 府中市の中心で、JR府中本町駅前の賑わいと魅力ある環境整備 ② 歴史の風情を感じることができる空間とシンボリックな施設等の整備 ③ 多くの来訪者が安全、安心に滞在できる便益施設の整備 ④ 個々の資源を相互に連携させ、歴史と伝統あるまちづくりにつなげていく	① 史跡の保存整備の基本方針 ・古代からの歴史の重層性と現代の都市活動が融和する空間づくり ・JR府中本町駅周辺の賑わいと魅力づくりに向けた環境整備 ・周辺の歴史資源や市内の文化資源を結び、めぐる拠点としての機能充実 ・府中市や地域の魅力の発信と、おもてなしの環境づくり ・地域の人々の暮らしとともに活用される市民活動の場づくり ② 区域区分と整備方針 区域を区分し、各区域の整備の方向性を明示 【国司館中枢区域】 遺構の保護と情報発信に関する環境整備等 【史跡交流区域】 史跡の歴史文化に関する情報発信 ガイダンスの整備等 【国衙地区連携区域】 地域の伝統行事等、多目的に活用できる広場の整備等	① 整備・活用の基本方針 ・史跡指定地内の遺構、遺物を適切に保護し、整備を行う ・史跡の本質的価値を見学者が容易に理解できるような、適切な情報提供 ・古代からの歴史の重層性と、現代の都市活動が融和する空間づくり ・JR府中本町駅周辺の賑わいと魅力づくりに向けた環境整備 ・地域の魅力の発信とおもてなしの環境づくりなど、観光交流の促進 ・当史跡をはじめとした地域の歴史文化を学ぶ場としての整備・活用 ・地域の暮らしとともに活用される市民活動の場や、憩いの場としての整備 ・広域的な歴史文化資源をめぐる拠点としての機能の充実 ・整備後の史跡の積極的活用を図るため、広い視点から活用の方策を検討する ② 運営及び体制整備の基本方針 ・史跡の管理運営を継続的に行うため、大國魂神社、市・市教委、地元住民の協働による管理・運営を行う ・歴史由緒ある府中市の重要な資源である文化遺産の活用を行うため、市民・行政・専門家（文化財保護審議会等）の協働による協議会において、具体的な活動の手法・計画の検討を行う	

II 計画地の概要

項目	内容
名称	国史跡武蔵国府跡（国司館地区）
史跡指定履歴	平成 23 年 2 月 7 日追加指定 文部科学省告示第 17 号
所在地	府中市本町一丁目 14 番 1 外 2 筆
敷地面積	7,812.76 m ²
土地所有者	府中市長 高野 律雄
用途地域	市街化区域及び近隣商業地域
防火指定	防火地域
法定容積率	300%
法定建ぺい率	80%
高さ制限	第三種高度地区



Ⅲ 本計画のテーマ

～国史跡武蔵国府跡国司館地区の保存・整備・活用が目指すもの～

地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場 「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」

府中市は、第6次府中市総合計画における「基本理念」の4項目の1つである「誇りと愛着の持てるまち」をスローガンとして、市民がふるさと府中の歴史文化に愛着を持ち、これからも住み続けたいと思えるまちを目指しています。更に、多摩川などの水と緑豊かな自然環境をはじめとして、武蔵国府跡などの歴史文化遺産を有し、ふるさと府中ならではの地域の個性を生かしたまちづくりを目標としています。

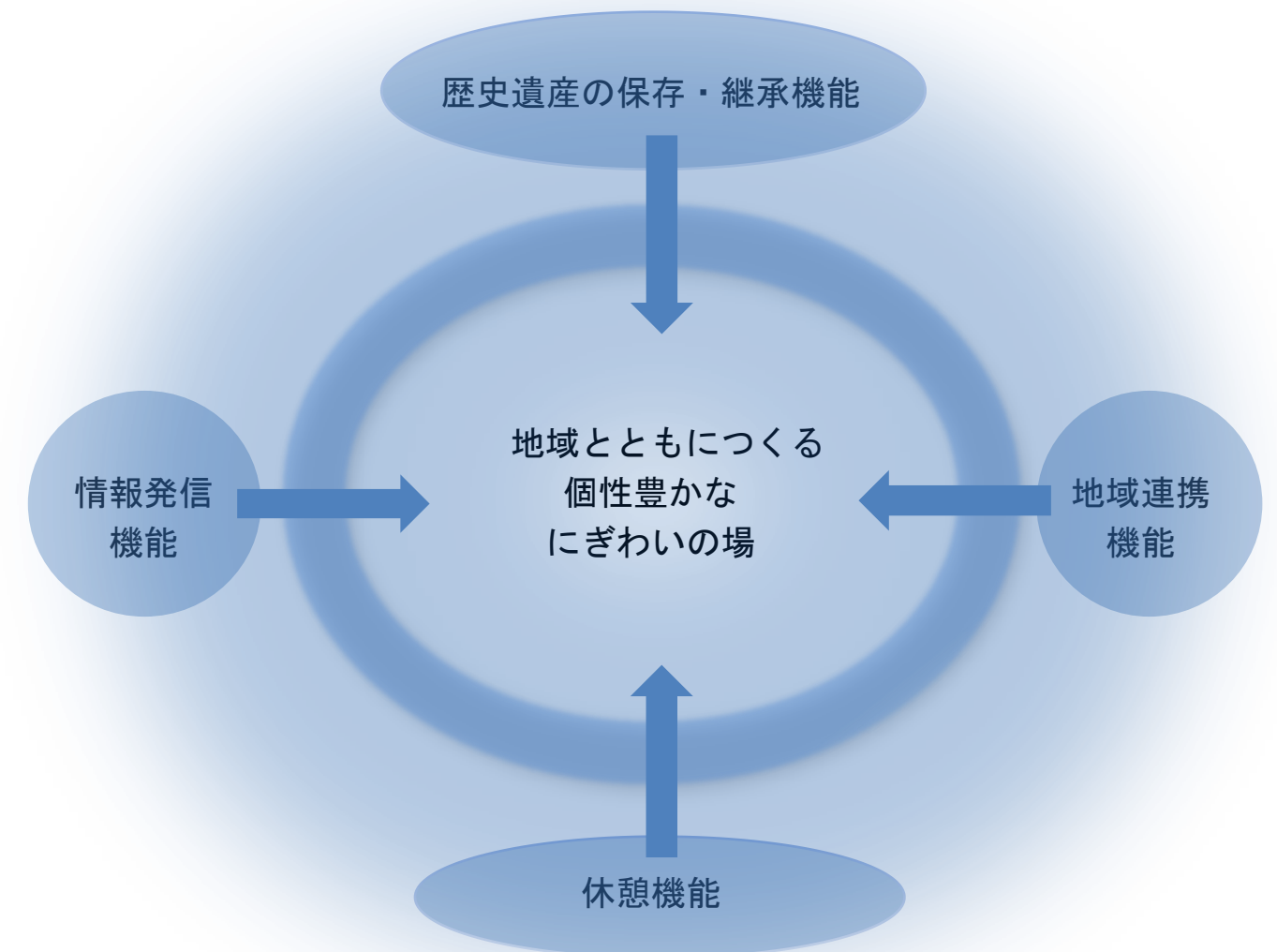
特に、地域固有の歴史、文化、自然や伝統の継承と発展を図り、魅力ある地域を実現していくことは、地域の活性化にも大きく寄与するものといえます。

「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」は、本市の歴史を象徴する奈良時代の国司館と江戸時代の徳川家康御殿跡という歴史遺産を活かして、様々な世代の人々が集い、交流し、憩う場として活用・整備するものです。

日本一JRの駅に近い史跡という立地環境から、国史跡の保存・整備事業の類型を超えて、歴史遺産の活用と駅前のにぎわいを積極的に融合させる計画です。

そのためには、庁内関係課や関係機関はもとより、市民との協働や民間活力の導入を進めるとともに、国分寺市の「史跡の駅」と連携し、市内外から様々な人たちが集う憩いの空間「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」を創出します。

この施設が整備・活用されることで地域の核が形成され、史跡を介した地域連携が促進されるなどの効果が期待されます。こうしたことを背景として、史跡としての「歴史遺産の保存・継承機能」はもちろんのこと、JR府中本町駅利用者が立ち寄れる「休憩機能」、駅利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「史跡の駅」をきっかけに人と人とが手を結びあう「地域の連携機能」の4つの機能を併せ持つ国内初めての史跡とにぎわいが一体化した施設「武蔵府中史跡の駅（仮称）」を目指します。



「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」の機能イメージ図

■「武蔵府中 史跡の駅（仮称）」4つの機能

① 歴史遺産の保存・継承機能

本市の歴史を象徴する貴重な歴史資産である国史跡武蔵国府跡（国司館地区）を、未来の世代へと確実に継承していくため、史跡としての本質的価値の適切な保存を行います。

長年に亘る調査研究の成果を公開し、ホンモノを見て、ホンモノに触れ、史跡の価値を体得できる場とし、ＪＲ府中本町駅前の立地を活かして本市の歴史と文化を象徴する地域の拠点とします。

② 情報発信機能

地域の価値や魅力を再発見し、市内外へ発信する歴史・文化発信の拠点とします。市民が地域の歴史・文化を語り、地域の価値や魅力、先人たちが残した様々な歴史的風致を再発見し、市内外へ発信する情報発信の拠点となることを目指します。

また、国史跡武蔵府中熊野神社古墳や郷土の森博物館、国分寺市の国史跡武蔵国分寺跡や「史跡の駅」など、市内外に点在する歴史文化遺産・文化施設を連結させたネットワークを形成し、来訪者・観光客が地域を巡るための拠点として位置づけていきます。

③ 地域連携機能

1,300年前の国府の時代から人とモノの歴史ある場であったことから、様々な世代の人々が集い、史跡に関連する活動ができる場として、市民の自主的な活動や、市民との協働による史跡の活用事業を推進していきます。より多くの市民に本市の魅力を気づかせ、共有することで、ふるさと府中を大切にする地域アイデンティティの形成を図ります。

また、子どもたちが、府中を象徴する歴史を見て（体感）、ふれて（体験）、知る（体得）ことができるように、市内の小・中学校を中心とした学校教育と連携を図り、本市特有の歴史・文化を身近なものとする人材育成を図ります。

④ 休憩機能

日本一ＪＲの駅に近い史跡という立地環境から、国史跡の保存・整備事業の類型を超えて、通勤・通学途中の人々も含め、誰もが気軽に集い憩うことのできる空間を目指します。



府中市で最も多くの観光客を集める
イベント、大國魂神社の「くらやみ祭」



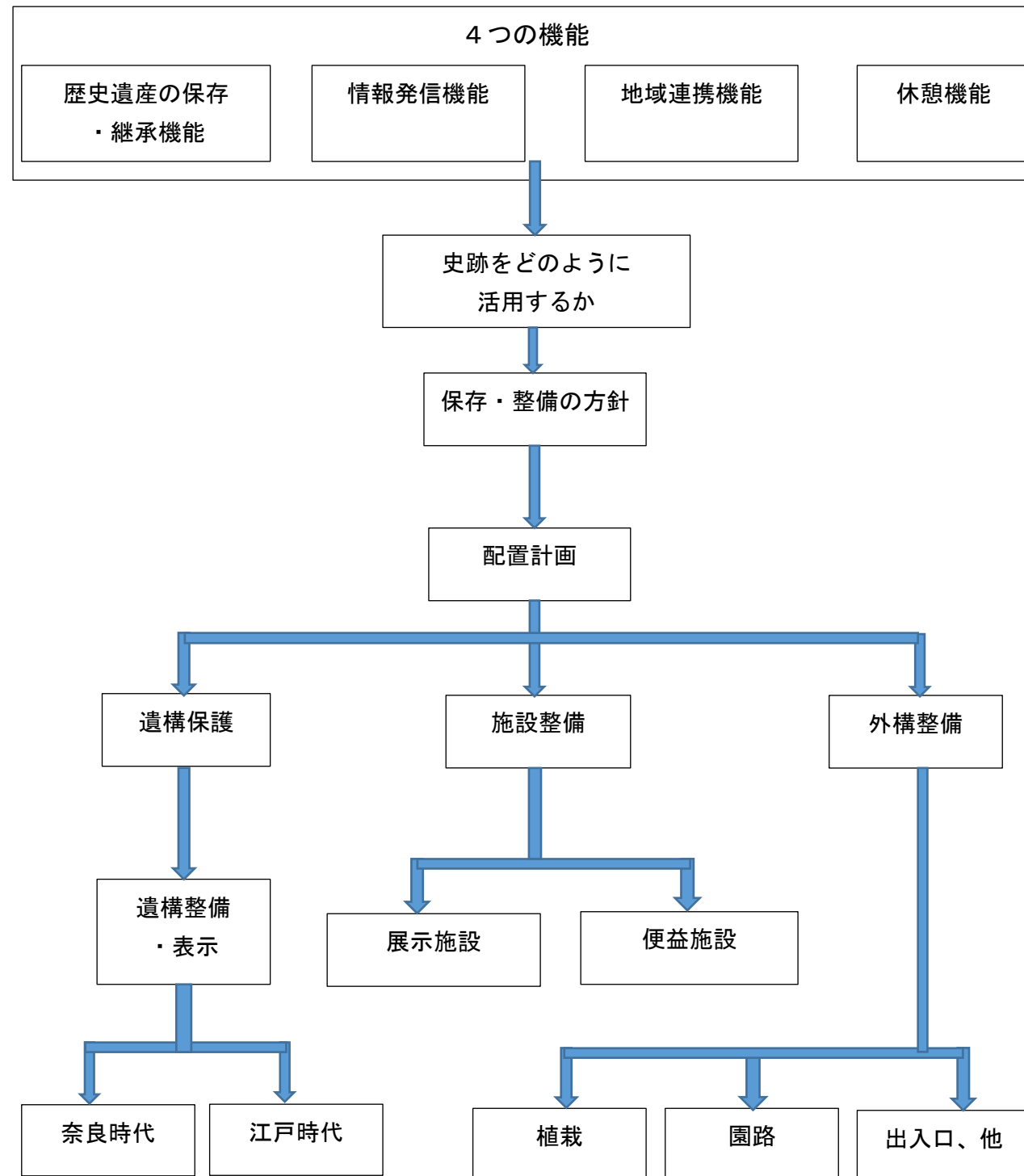
武蔵府中ふるさとまつり 鷹狩再現イベント風景



古代衣装体験（武蔵国府跡 国衙地区）

IV 基本設計の前提条件

IV-1 計画の構成



IV-2 活用の基本方針

① 歴史的魅力を発信し、先人たちの心に思いを馳せる空間

- ・ 史跡の本質的価値である古代国司館と、徳川家康府中御殿という府中の歴史を象徴する2つの歴史遺産を強いメッセージとして発信します。

② 歴史遺産を通して、未来のために今を知る空間

- ・ 古代から今に至る歴史と伝統あるまち府中を知り、未来を担う子どもたちの郷土への誇りと愛着を高めていくことを目指します。

③ 市の中心市街地や歴史文化遺産の回遊拠点となるシンボリック空間

- ・ 来訪者の憩いの空間や多目的イベント広場を設置し、地域の回遊拠点としての機能を持たせます。

④ 「電車を降りたら、1分で奈良時代」

- ・ 日本一JRの駅に近い史跡として、JRと連携した活用を図っていきます。

⑤ 地域のコミュニティが生まれ、駅前のにぎわいを創出する空間

- ・ 子どもから大人まで、あらゆる市民の視点で、何度も繰り返し訪れたい空間を創出します。

Ⅳ-3 活用の計画

本地区が府中市民にとって本市を代表する歴史遺産であり、未来へと守り伝えられるべき文化財であると同時に、身近な文化活動（学校教育、生涯学習等）や憩いの空間であり人々が一年を通して集まるレクリエーション活動の場となるよう、日常的な利用を積極的に推進します。

① 活用のための基盤整備

大國魂神社、国史跡武蔵国府跡（国衙地区）、国天然記念物馬場大門のケヤキ並木など、市内に点在する歴史遺産や郷土の森博物館などの教育・文化施設、周辺観光スポットとの有機的ネットワーク化を図ります。また、ボランティア等によるガイドシステムの構築、年間を通した各種イベント開催などにより、来訪者にとっての地域の魅力アップを図り、同時に各方面への波及効果を高め、地域の活性化による地域の特色あるまちづくりへも寄与するよう努めます。

② 活用計画

・教育分野での活用

市内の小中学校と連携し、ふるさと郷土府中の学習に利用できるように、小中学校の先生方に初期段階から加わっていただき、歴史学習プログラムを作成し、教師、児童・生徒に提供します。また、地元の小学校や中学校を中心に、史跡整備の段階から解説マップやパンフレット製作などに係ってもらうなど、地域と一体化した活用を図ります。

学習・普及機能を推進するにあたっては、郷土の森博物館の事業とも連携を図りながら行います。

また、見学案内・体験学習指導の対応できるボランティアを育成します。

・市民による活用イベントの企画・運営に対する支援

年間を通した地域住民等との協働による利活用を目指し、現在立ち上げている地元市民との活用検討作業部会を中心に、少しずつ範囲を広げて具体的な取組を行っていくとともに、広報、インターネット等あらゆる手段を講じた情報発信によって、幅広い市民参画が得られるよう努めていきます。

【例】

○武蔵府中熊野神社古墳保存会のような、地元市民を主体とした団体を組織します。

・市内関係団体との協働による利活用

関係諸機関との連携・調整を図り、庁内の関係部署はもとより、市内関係団体、大國魂神社、ＪＲ東日本・ＪＲＡ東京競馬場などの関係諸機関と密接に連携し、主管課が調整窓口となりながら、定期的な情報交換会を開催するなど、協力体制を構築していきます。

・古代国司の万葉植物園（仮称）の設置

古代万葉集に興味がある市民、花好きの市民に集まっていただき、計画段階から連携して古代国司館の隣接地に万葉植物園（仮称）を設置します。それにより一年を通して市民が直接係ることで、利活用につながっていきます。

・徳川家康献上「府中産マクワ瓜」の復活

地元農家・商工会議所等と協働で、徳川家康御用達の「マクワ瓜」を栽培し、地元の特産品として加工品等の商品開発を行います。

国史跡武蔵国府跡国司館地区 活用力レンダー

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
二十四節気等	小寒 大寒	立春 雨水	啓蟄 春分	清明 穀雨	立夏 小満	芒種 夏至	小暑 大暑	立秋 処暑	白露 秋分	寒露 霜降	立冬 小雪	大雪 冬至
平均気温 (H21～25年)	4.0℃	5.3℃	8.5℃	13.4℃	18.4℃	21.9℃	26.4℃	27.5℃	23.8℃	18.0℃	11.6℃	6.5℃
平均降水量 (H21～25年)	60.5mm	79.3mm	97.6mm	153.4mm	170.2mm	154.0mm	93.3mm	97.5mm	287.7mm	220.2mm	83.1mm	87.9mm
府中市の 四季(自然)	ツバキ ロウバイ	梅	菜の花 タンポポ	桜	ケヤキ並木の 新緑 ムサシノキスゲ	梅雨 アジサイ	大賀ハス	セミの声	中秋の名月 ヒガンバナ	多摩川のオギ	イチョウ	冬景色
暮らしの 行事等	元旦 初詣 鏡開き	節分 バレンタインデー	ひなまつり 彼岸 ホワイトデー	お花見	端午の節句 こいのぼり	衣替え	七夕 土用	盆行事	彼岸	ハロウィン	七五三	クリスマス 大晦日 除夜の鐘
府中市内の 既存の祭り・ イベント等	・初詣 ・成人のつどい ・どんど焼き	・節分祭 ・郷土の森 梅まつり	・卒業式 ・春休み	・市民桜まつり ・入学式	・くらやみ祭 ・日本ダービー 他G I 競走	・郷土の森 あじさいまつり ・キャンドル ナイトin府中 ・流鏑馬と 古武術演武	・文化センター まつり ・すもも祭 ・東京競馬場 花火大会	・夏休み ・商工まつり ・よさこいin府中 ・八朔相撲祭	・市民芸術 文化祭 ・敬老の日 記念大会 ・くり祭 ・武蔵国の 酒祭り	・市民文化の日 ・古墳まつり ・福祉まつり ・JAZZ in Fuchu ・天皇賞・秋	・東京文化財 ウィーク ・農業まつり ・NPOボランティア まつり ・酉の市 ・ジャパンカップ	・ケヤキ並木 イルミネーション ・冬休み ・晦日市
国司館地区での 活用イベント例	・凧あげ ・郷土かるた大会	・節分豆まき	・雅楽演奏会	・野外コンサート	・くらやみ祭の 山車巡行	・まくわ瓜栽培	・盆踊り大会 ・七夕まつり	・古代生活 体験会 ・薪能	・月見の宴 ・古代食試食会 ・写真コンテスト	・府中時代まつり ・郷土芸能 鑑賞会	・放鷹術実演会 ・野外アート フェスティバル	・国司館 ライトアップ ・餅つき大会
通年開催の イベント例	・文化財めぐりガイドツアー ・スタンプラリー ・土器作り体験 ・古代衣装体験 ・蹴鞠 ・野点茶会 ・万葉の草花を愛でる会 ・朝市 ・フリーマーケット ・大道芸 ・鎧武者演武 ・着ぐるみショー 等											

V 基本設計の概要

V-1 保存・整備の基本方針

① 史跡指定地内の遺構の適切な保護

- ・史跡指定地全体を現状のまま保存することを前提とし、全体に厚さ 30cm 以上の盛土をして遺構の適切な保護を図ります。

② 「基本計画（提言書）」に基づくゾーニング

- ・「基本計画（提言書）」に基づき、「古代の空間再現ゾーン」「にぎわい創出ゾーン」「国衙地区（大國魂神社）連携ゾーン」の3つに分けて整備を計画します。

③ 段階的な実施工程

- ・市の財政負担を考慮するとともに、「にぎわい創出ゾーン」における民間活力の導入を目指すため、各ゾーンごとに段階的に整備を実施します。

④ 史跡南側の公開空地との連携

- ・「多摩の横山」と万葉集に詠まれた多摩丘陵と富士山を望む眺望が確保されている、史跡南側の公開空地と連携した活用を行うための園路を確保します。

V-2 配置計画

【1期工事予定】

A. 古代の空間再現ゾーン

- ・奈良時代の国司館の建物跡などの配置を再現し、歴史的な景観を創出します。

B. 国衙地区連携ゾーン

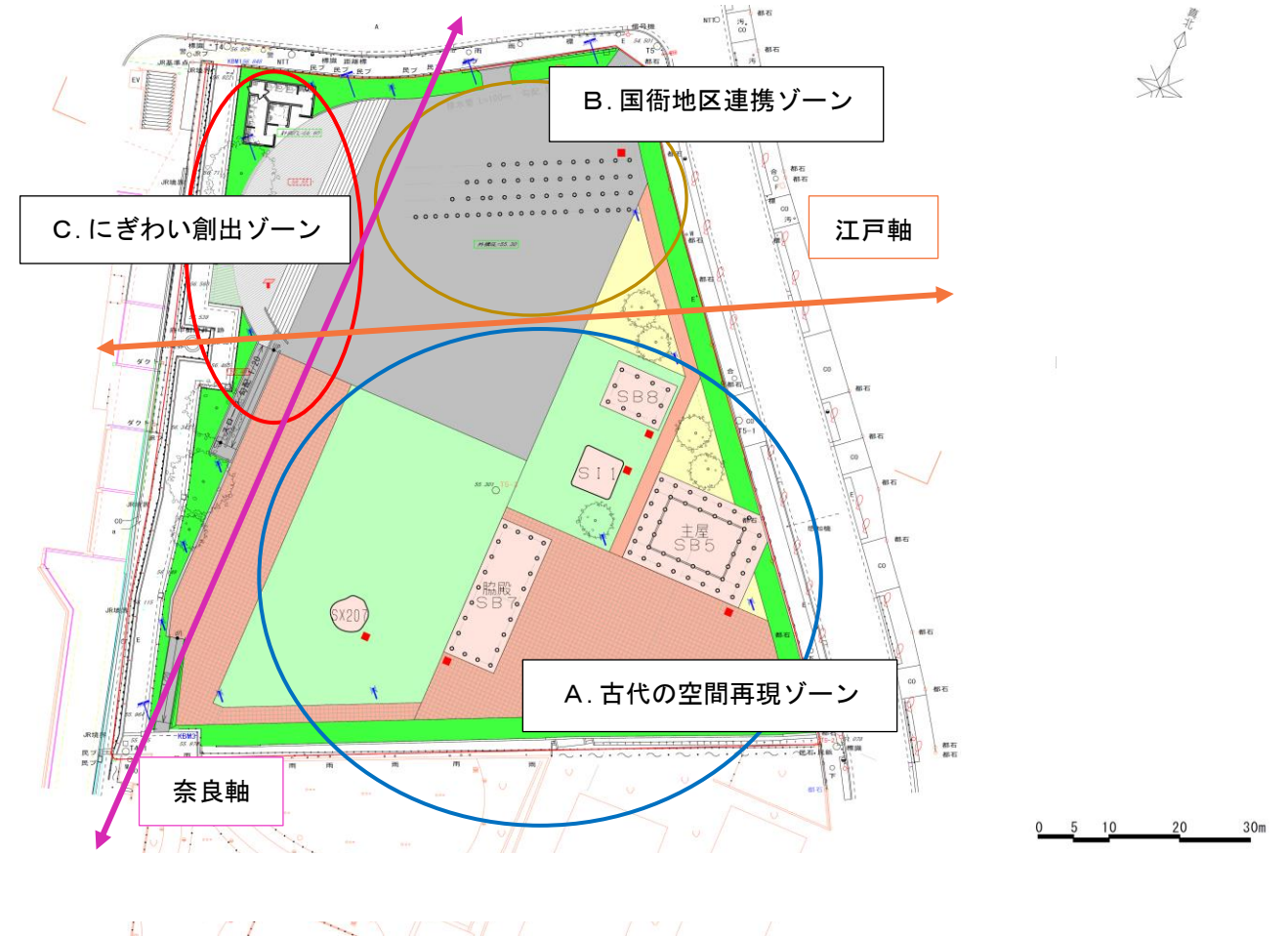
- ・大國魂神社のある国衙地区との連携を図るとともに、多目的な活用に対応できる広場とします。また、2期工事までの間、当該地区を多目的に使用できるように仮設の屋外展示と便所を設置します。

【2期工事予定】

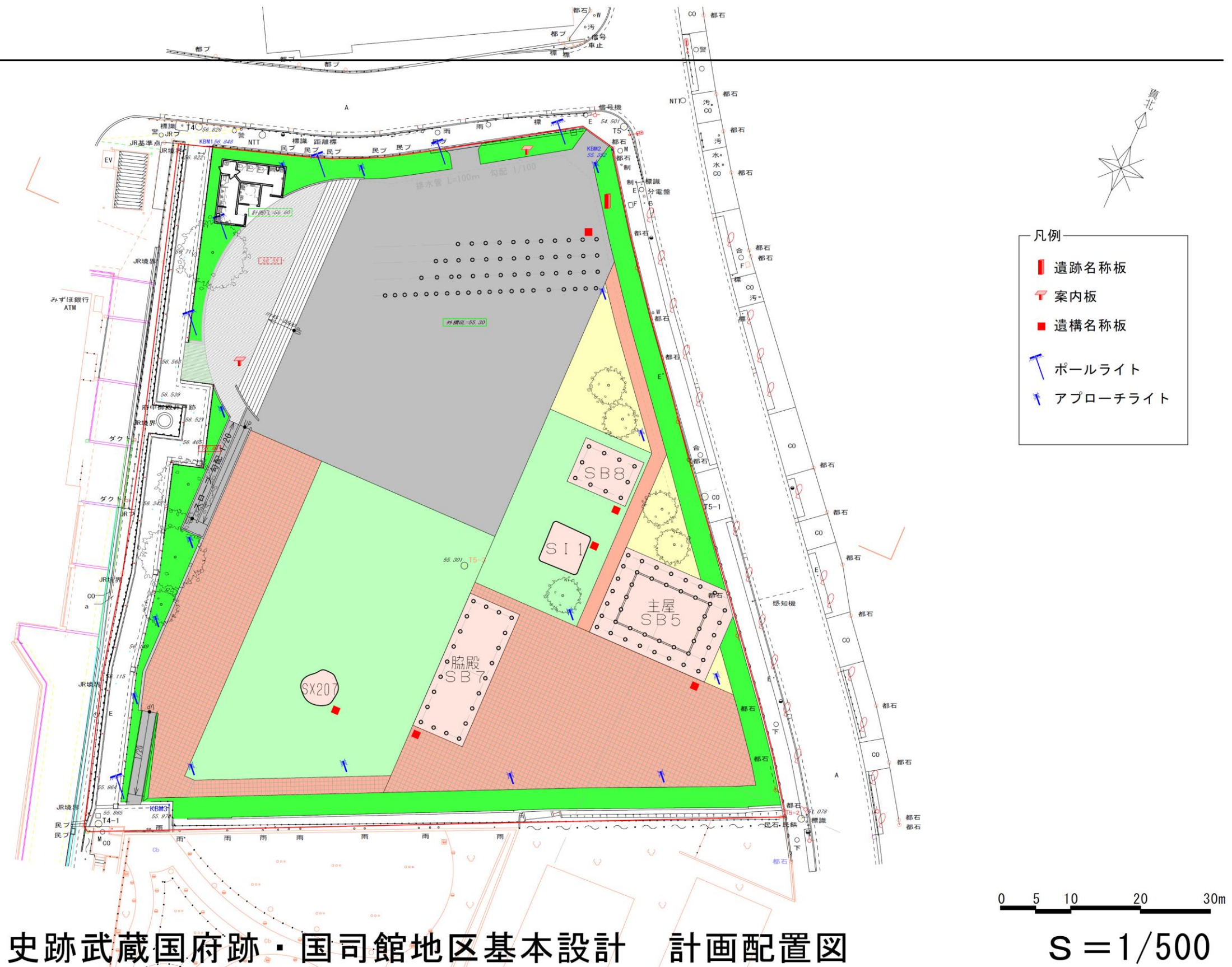
C. にぎわい創出ゾーン

- ・簡単な史跡の展示室、物販、休憩コーナー、便所等を持つ施設を配置します。
なお、このゾーンについては、地域のにぎわいの拠点となるよう、平成28年度に民間市場調査を実施し、広く検討していくこととします。
- ・その中で、観光用小型バス等が駐車できるスペースも検討します。

■ゾーニング計画配置図



V-3 全体配置図



V-4 遺構整備

① 整備対象とする時代と遺構

国司館に関する遺構表示の対象は、最もその重要性を示すⅡ期、奈良時代前葉（8世紀前半・武蔵国府編年N2期）の主屋（SB5）、副屋（SB7）、付属建物（SB8）、竪穴建物跡（SI1）、大型円形土坑（SX207）とします。

② 遺構表示方法

・国司館主屋（正殿）（SB5）

国司館の中心となる掘立柱建物跡SB5は、本史跡整備の核となる建物であり、国司館の空間構成を具体的にイメージできるよう、取り外しが可能な柱を立て、実物大で立体的に表示するとともに、AR（拡張現実）などのバーチャル技術を用いて復元します。

・国司館副屋（脇殿）（SB7）・付属建物（SB8）

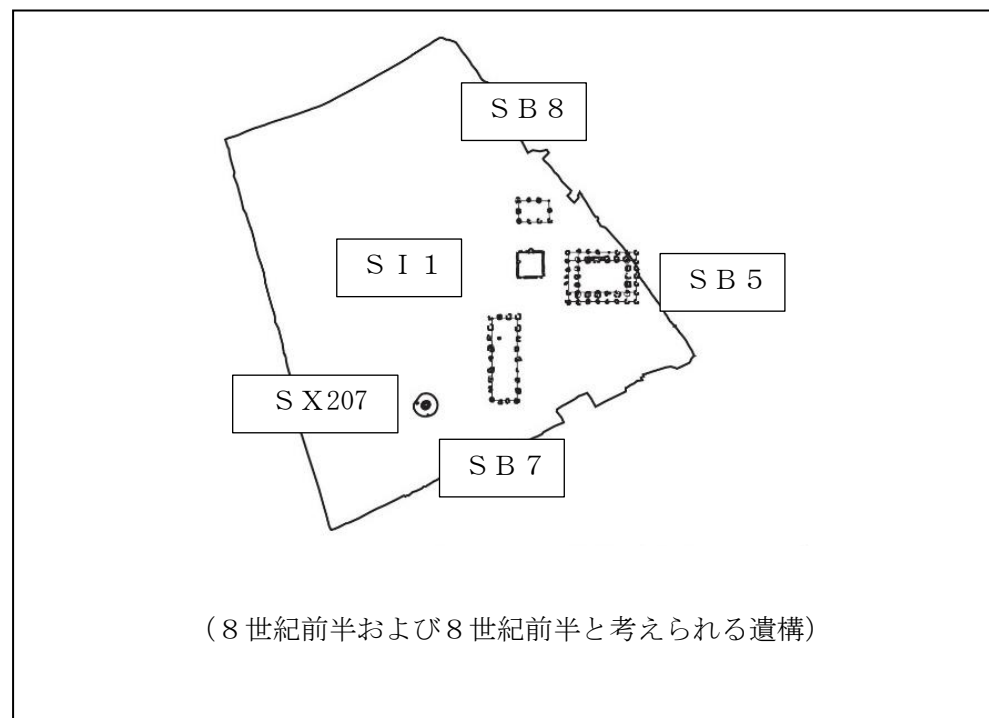
SB5と同時存在と考えている両建物跡は、国司館の空間構成を体感できるように、取り外しが可能な柱を立て、実物大で立体的に表示します。

・竪穴建物跡と大型円形土坑

掘立柱建物群とセットになる竪穴建物跡（SI1）と大型円形土坑（SX207）は、実際の大きさの穴を型取りし、GRC（ガラス繊維入りコンクリート製）複製として現地に表示します。

③ 表示位置

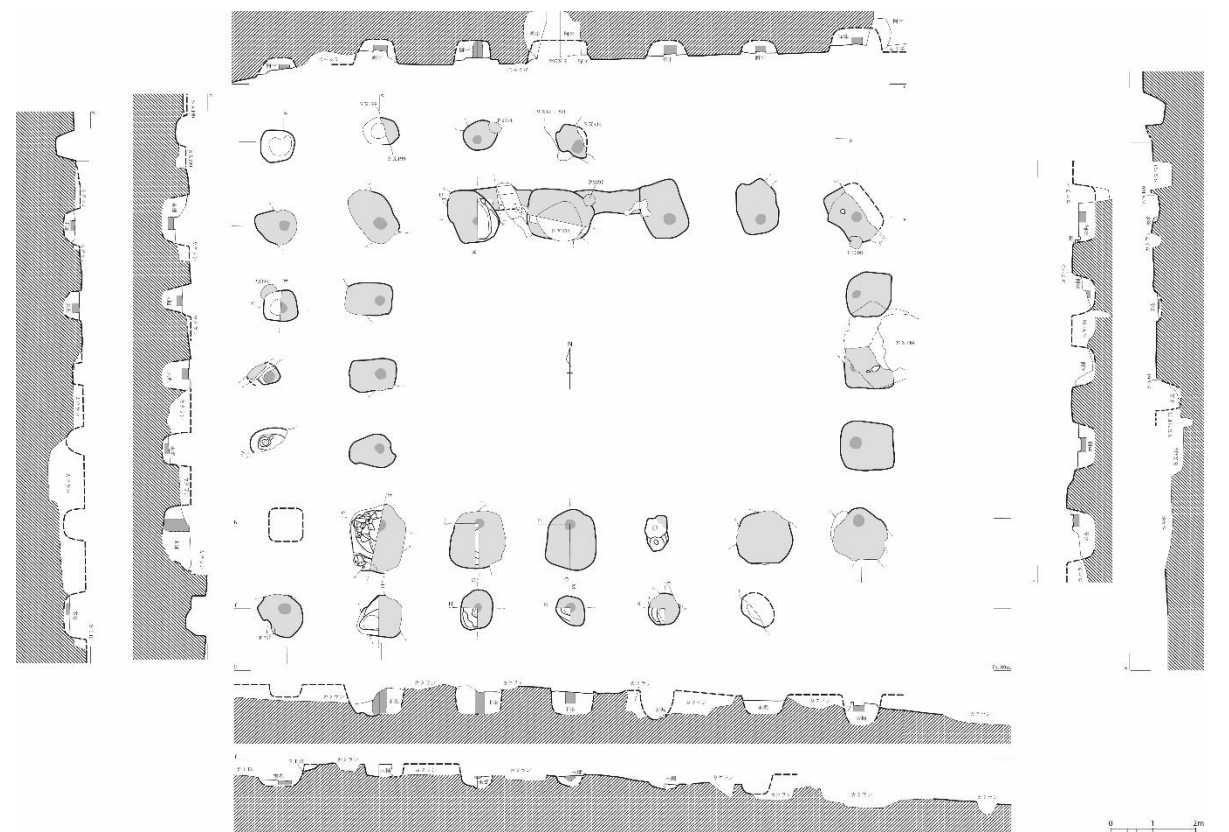
これらの復元表示は、全て発掘調査で確認した原位置の真上に、保護のための盛土を被せ、その上に設置します。



■整備対象遺構図



■国司館主屋SB5全景写真（上空真上から）

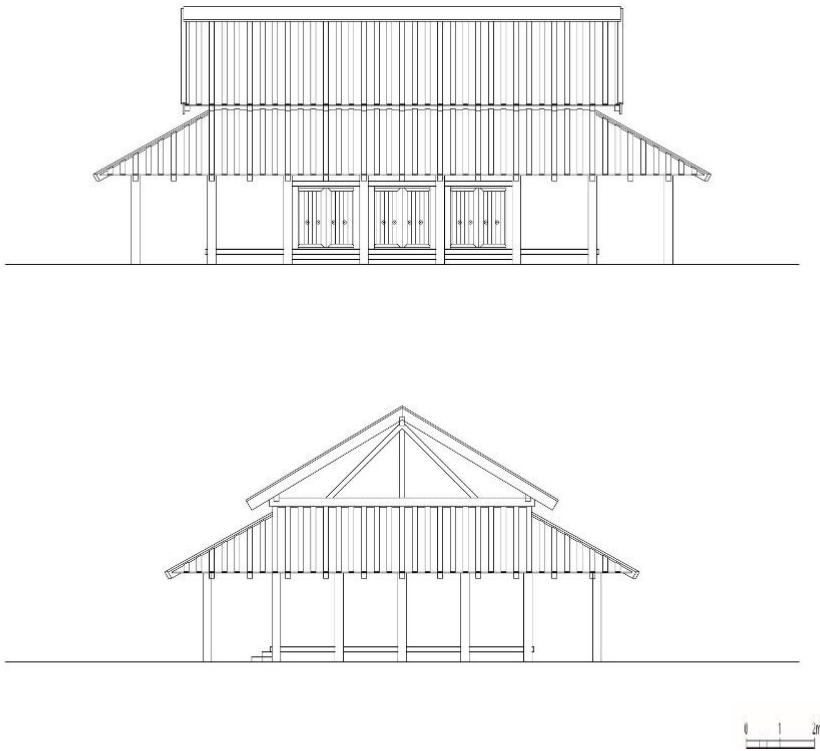


■国司館遺構SB5遺構平面図

■国司館主屋S B 5 バーチャル復元イメージ

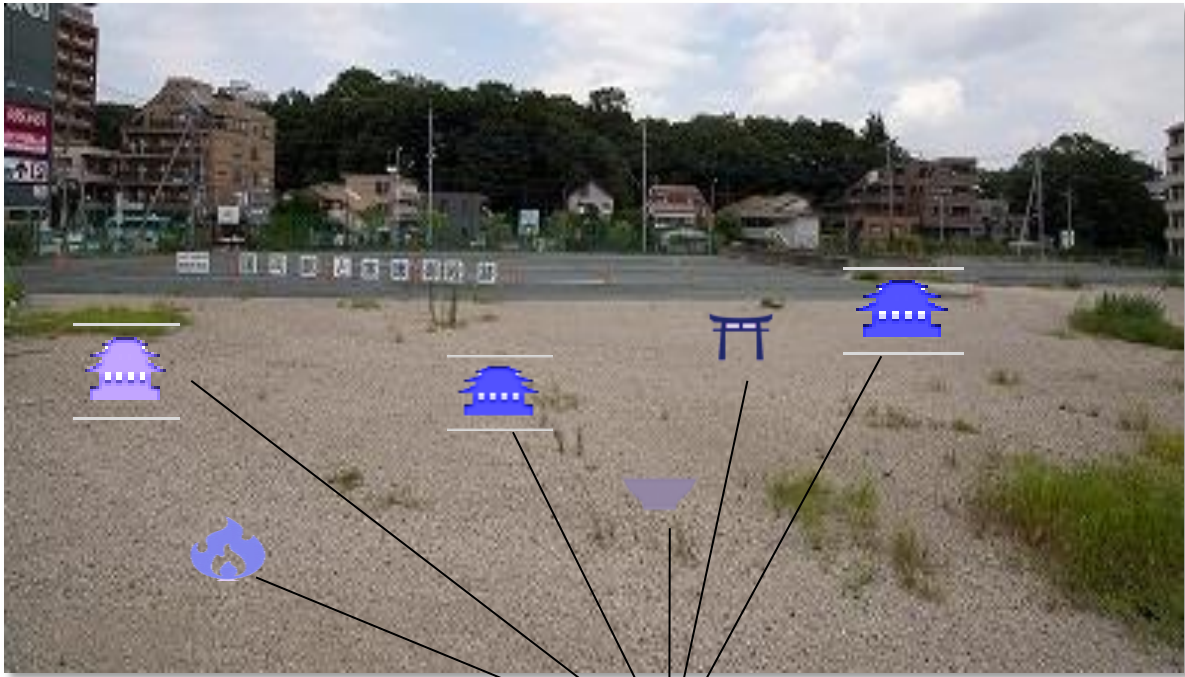


歴なび多賀城AR・VR復元 国特別史跡 多賀城跡（宮城県多賀城市）



主屋S B 5

■AR国司館・府中御殿 活用イメージ



タブレット端末が使用できるポイント



タブレット端末を使用し、
ARポイントが近づくと
建物や歴史上の人物が浮かび
あがる

V-5 外構整備

① 史跡出入口の設置

史跡の出入口をJR駅側に1か所、史跡境界北側に2か所（現況）、南側公共用空地側1か所（現況）に設けます。管理上、原則として夜間は閉鎖します。

② 園路

史跡内を回遊できる園路を設け、駅から史跡に降りるスロープ、南側の公共用空地出入口、古代再現ゾーンの中庭、国衙地区連携ゾーンの多目的広場をつなぎます。

③ 広場等

- ・古代の空間再現ゾーン：建物に囲まれた「中庭」、西側ガイダンス施設との間の「芝生広場」、北側の「植栽広場」を設けます。
- ・国衙地区連携ゾーン：様々なイベント等で使える多目的広場とします。

④ 駐車場及び駐輪場

- ・緊急用及び管理用の駐車場を史跡の北側部分に設けます。
- ・イベント時等の来場者用の駐輪場を史跡の北側部分に設けます。

⑤ サイン

- ・景観を乱さないために必要最小限の説明板を設置します。
- ・計画地全体の施設配置や内容等を出入口に設けます。
- ・国衙地区連携ゾーンの多目的広場に史跡の説明板を設けます。
- ・その他の案内はパンフレット等で対応します。

⑥ 休憩施設

- ・休憩用のベンチ等は、にぎわい創出ゾーン及び古代再現ゾーン脇殿付近（SB7）等に設けます。

⑦ 外灯設備

- ・建物の庇等に外部照明用器具を取り付け、園路に沿って低い照明器具を設け、出入り口回りに独立した外灯を設けます。

⑧ 水飲み設備、自販機等

- ・にぎわい創出ゾーンに設置します。

⑨ 植栽計画

- ・計画地は、北側、東側、南側に民家・共同住宅・商業施設等が隣接しているため、境界部分に屋敷林として「シラカシ」を主要樹種として植栽します。
- ・古代の空間再現ゾーンの北側植栽ゾーンは、古代万葉集の草花や、古代に関係する染色や織物、薬用、食用となる草花等、春夏秋冬一年を通して季節ごとに楽しむことができる植栽とします。主要植物として、紫草、大豆、古代米、菜の花、クワ、レンゲソウ等が考えられますが、具体的な内容等は、広くボランティアを募って検討し、市民と協働で管理をします。

- ・古代の空間再現ゾーンとガイダンス施設の間の広場は、野芝を貼ります。
- ・地元農家と協働で、徳川家康御用達の「府中産マクワ瓜」を栽培します。

V-6 管理・運営計画

① 基本条件

管理・運営の基本条件は、次のことを念頭に計画を行います。

- ・本計画地は、学習機能の場（見学・学習・体験活動）と人が集まる憩いの場であり、効果的な運営の実現には、活動内容を整理し、実践することができる運営体制を目指します。
- ・開館時間は連携を図る南側共同住宅公開空地通路を除き、管理運営上、夜間は閉鎖とする。ただし、開館時間、開館日等は今後検討します。
- ・本計画地は地域住民の住居と隣接しているため、地域住民の生活に十分に配慮した管理・運営を行います。
- ・本計画地は広大な敷地であり、安全で快適な利用を保つため、機械警備を適切に行います。

② 施設等の管理・運営主体

本計画地の管理主体は府中市ですが、将来の賑わい施設の民間の管理・運営を見据えながら、地域住民が主体的に係ってもらえるようこの段階から連携を図りながら行っていきます。

③ 史跡公園全体の管理・運営条件

- ・本計画地全体の外周部は安全性の面から柵等を設置し、出入口以外は閉鎖管理とします。
- ・夜間照明は、夕方利用や防犯上必要な範囲で設置します。また、できる限り費用を縮減しながら、夜間のライトアップを行います。

V-7 概算工事費

国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存整備工事に係る概算工事費は次のとおりです。（2期工事分は除く）

■ 1期工事分

・ 古代の空間再現ゾーン・国衙地区連携ゾーン 整備工事	約3億8,200万円（税抜）
・ 古代の空間再現ゾーン A R復元制作	約 1,200万円（税抜）
・ 小 計	約3億9,400万円（税抜）
・ 消費税（8%）	約 3,152万円
・ 合 計	約4億2,552万円

■ 2期工事分（にぎわい創出ゾーン）については、平成28年度から29年度に見直し、設計を行います。

V-8 今後のスケジュール

■平成27年度	実施設計（1期工事分）
■平成28年度	1期工事着手 にぎわい創出ゾーン民間市場調査
■平成29年度	実施設計（2期工事分）
■平成29年度末	1期工事竣工、一般公開開始
■平成30年度	2期工事着手
■平成31年度末	2期工事竣工

VI 各政策との連携

VI-1 新庁舎建設事業

① 歴史的価値に関して

新庁舎建設事業と連携を図り、国司館地区と新庁舎の展示機能が重複しないように、展示機能を設置します。

・新庁舎展示機能

府中市の成り立ち、自然（ケヤキ並木含む）、地形、歴史、民俗（くらやみ祭）など、市全体の歴史の展示機能

・国司館地区展示機能

武蔵国府跡と国司館、徳川家康府中御殿に特化した展示とします。

② 観光振興に関して

・大型バス等の駐車場は計画敷地内に確保できないため、新庁舎建設事業と連携し、大國魂神社を通して計画敷地へ至る観光周遊ルートを設定します。

・地域の中で、新庁舎と国司館地区を含めた各施設や歴史文化遺産とのネットワークを形成していきます。

VI-2 計画地周辺の歴史遺産を活かしたまちづくり

府中市には、大都市東京の市街地にありながら、市の南端を東西に流れる多摩川に代表される水と浅間山や府中崖線などに代表される緑豊かな風景に包まれた環境の中で、1,300年以上の時を越えて眠り続けてきた、市名の由来になっている武蔵国府跡などの様々な時代の風景を感じさせる歴史文化遺産があります。平安時代に古代地方都市としての国府の役割を終えた後も、府中には数多くの歴史が刻まれ、大國魂神社をはじめ、様々な時代の風景を感じさせる「歴史的風致」が点在しています。

府中市は、第6次府中市総合計画における「基本理念」の4項目の1つである「誇りと愛着の持てるまち」をスローガンとして、市民がふるさと府中の歴史文化に愛着を持ち、これからも住み続けたいと思えるまちを目指しています。更に、多摩川などの水と緑豊かな自然環境をはじめとして、ふるさと府中ならではの地域の個性を生かしたまちづくりを目標としています。

マンションや商業施設などが立ち並ぶ大都市東京の開発が進んだ中であっても、多くの伝説に彩られた大國魂神社など、時代の風景を感じさせる歴史遺産が数多く残っていることが大きな特徴です。

特に、大國魂神社周辺にある地域固有の歴史、文化、自然や伝統の継承と発展を図り、魅力ある地域を実現していくことは、地域の活性化にも大きく寄与する「府中市の強み」といえます。

大國魂神社周辺の地域では、国天然記念物馬場大門のケヤキ並木があります。ケヤキ並木は、武蔵国府域の中心にもなっていて、大國魂神社の参道でもありました。

その大國魂神社は、都から赴任してきた国司（武蔵国の長官）が祭祀を行っていた総社が前身となっており、毎年5月の連休中に盛大に挙行される東京都無形民俗文化財「武蔵府中くらやみ祭」も、古代の「武蔵国の国府祭」に由来するもので、1,300年の時を越えて都市の中に歴史と伝統が息づく祭礼です。

また、大國魂神社は都市の中心市街地にありながら、約42,000㎡という広大な社地を有し、静寂な空間を保ってきたのも、その縁起が武蔵国の起源と重なっているからとも言えます。特に、1月の初太鼓から始まり、2月の節分祭、5月の例大祭・武蔵府中くらやみ祭など、年間を通して多くの祭礼が行われていることから、中心市街地の中でのにぎわいが創出されていることが重要です。

その中で、国史跡武蔵国府跡（国司館地区）は、本市の歴史を象徴する古代武蔵国府の時代と、徳川家康府中御殿という歴史的価値を有しており、それを高めていながら、駅前のにぎわいと魅力ある空間作りの視点から、総合的且つ持続的な地域の活性化に結びつける重要な核となるものです。

本市の市名の由来である武蔵国の国府、国府祭に由来する大國魂神社例大祭くらやみ祭と大國魂神社の社叢、そして国史跡武蔵国府跡（国司館地区）という他市にはない1,300年前からの歴史と伝統を現代の都市空間に活かしていくことが重要な視点と考えます。

A wide, tree-lined street in a city, likely in Japan, showing a paved road with a white diamond-shaped marking, sidewalks, and large, mature trees lining both sides. A red car is visible on the right side of the road.

・市民が身近にふれあう歴史文化としての整備、ネットワークづくり

通体系、

旧甲州街道

府中市役所
新庁舎

府中本町駅

馬場大門けやき並木

府中駅

大國魂神社

国史跡武蔵国府跡

国衙地区

JRA 東京競馬場

府中崖線

国司館地区

・府中本町駅と府中駅周辺の相互連携による地域の活性化
・歴史文化資源を活かした交流の促進、ネットワークづくり

・関心を高め、引き込むの場として身近に触れる

0 50 100 200(m)



-15-

